

安堂寺橋 あんどうじばし ● Andoji-bashi  
(東横堀川)

東横堀川の久宝寺橋と末吉橋の間に架かる橋が安堂寺橋。橋名は、伝説的な寺の「安曇寺(あづみじ)」が由来と伝えられているが、その寺の位置は定かではなく現在では否定されている。安曇寺は『日本書紀』に記載されている安曇寺のことであるといわれ、古代海人族の阿曇氏の拠点が上町台地側にあったとも推定されている。また、聖武天皇が遊覧したとされる安曇江は東横堀の前身となる入江であったともいわれる。

江戸時代この橋通りは、玉造から生駒の暗峠に達する奈良街道に通じる重要な道筋にあたり、江戸時代初期には架けられていた。橋の東側は木材をはじめ竹や竹皮の取引が行われ、西側は南船場につながり、金物屋や砂糖商の密集する町だった。

明治中期に鉄柱で支えられた木桁橋となり、大正3(1914)年に鋼板桁に架け換えられた。

現在の橋は、昭和42(1967)年に三径間の鋼板桁に架け換えられたもの。その後、交通量の増加に伴い同49(1894)年に、両側へ1.5mの歩道が拡張され現在に至る。

